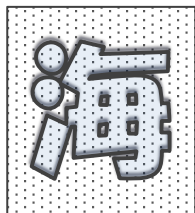


夏には自然に親しむ記念日やイベントがたくさんあります。
海の日（7月第3月曜）、山の日（8月11日）や七夕など
など…、それぞれに関連した本を紹介します。

***図書館正面に関連本を展示しています。**



無人島に生きる十六人/須川邦彦著

明治31年に本当に起こった遭難事故。
16人の乗組員が漂流し、無人島にたどり
着く。そこで彼らは愉快地に生き抜くため、
前向きに取り組むための4つの約束を交
わす。

これは『十五少年漂流記』ならぬ『十
六おっさん漂流記』だ！

思い出のマーニー/ジョン・ロビンソン作

親族を亡くしたアンナは、養親のすすめで
海辺の町にやってきた。心を閉ざしたアンナ
は偶然マーニーという少女に出会い、心の傷
を癒していく。その少女はちょっと不思議な
女の子だった。

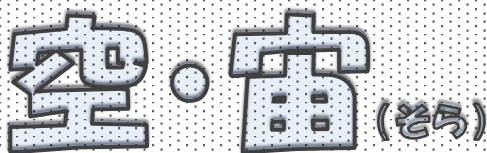
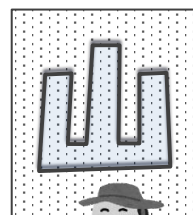
少女時代のひと夏に出会った友情と癒され
るひととき。

神去なあなあ日常/三浦しをん著

フリーター・ニートまっしぐらのユウ
キ18歳。彼が飛び込んだ、いや放り込ま
れたのはド田舎。就いた職業は林業。イ
ヤイヤはじめた仕事だけど、雄大な山々
とキャラの濃い隣人たちに囲まれ、どん
どん気持ちは切り替わっていきます。楽
しみながら林業を知る、まさに「林業エ
ンターテインメント小説」。

百名山の人:深田久弥伝/田澤拓也著

深田久弥は、石川県大聖寺町（現：加
賀市）出身の登山家です。彼の名を有名
にしたのは、各地の山を訪れ、執筆した
『日本百名山』。生まれ故郷から臨む白
山を愛し、登山中に絶命した深田の生涯
を知ることができる1冊。余談ですが、
『山月記』（中島敦著）は深田が文学雑
誌に推薦し、これが中島敦のデビュー作
となったそうです。



ナウシカの飛行機、作ってみた/ 八谷和彦、猪谷千香著

あの「ナウシカ」に出てくる飛行機「メーヴェ」
を作ってみようと思い立った著者。理由はいろいろ
あれど、一つは「カッコいいから」。タイトルが軽
い感じですが、実際の制作には相当な苦労があった
ようです。

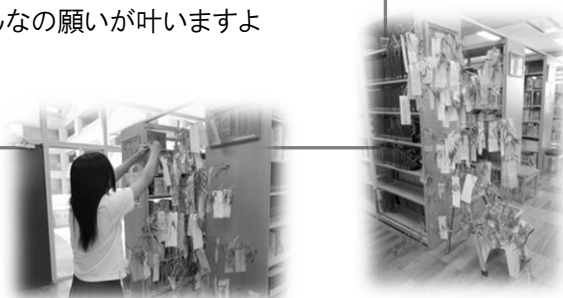
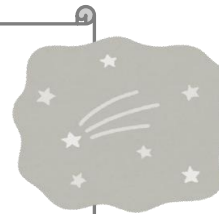
自称中二病の著者はじつはポストペット開発者だ
そう。なにかを生み出すときは、相当に熱い情熱や
思い込みが必要なのだろう…。

天地明察/沖方丁著

江戸時代に「日本独自の暦」を作ることに生涯をかけた
実在の人物が主人公。ただ単に算術を愛する青年である
渋川春海が、多くの人たちと出会い、学び、絆を深めて
ゆく。春海が築いたあたたかく深い人間関係からは、
彼が極めてゆかんとする天文の道と同じ雄大さを感じる
のです。

「明察」とははっきりと真相や事態を見抜くこと。春
海は、手をのばしても届かない天の営みと、地上に住ま
うものの営みの尊さを感じていたのかもしれない。

6月下旬から7月7日まで、
七夕の笹飾りを設置していま
した。笹にはたくさんの生徒が
思い思いに願い事を書いた短
冊を吊るしてくれました。
みんなの願いが叶いますよ
うに。



おしらせ

◎6月30日の選書会で生徒が選んだ本が少
しずつですが、利用可能になりました。
◎北國新聞を図書館入口に設置しました。
新聞読んでコンクールに使ってください。